

# 赤い空はダメ？

岡崎市教育委員会 委員  
岡田 京子 氏



## 教育随想



平成 29 年 4 月 1 日

# 4 月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

教育随想……………	1
岡崎市教育委員会 委員 岡田 京子 氏	
この人に聞く……………	2
全国メダカ協会会員 天野 雅弘 氏	
羅 針 盤 ……………	2
岩津中 校長 長坂 洋人	
ふれあい……………	3
六ツ美北中 丸尾 友美	
特 集……………	4
平成 29 年度 岡崎の教育	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
自然観察コース完成 (昭和 62 年)	
この本を……………	8

先日、首都圏に住む友人の話に強い衝撃を受けました。

昨今首都圏では、幼稚園・小学校受験が広まり乳幼児期からお受験塾に通わせることも特別なことではなくなっているそうです。驚いたことに、お絵描きの課題で赤い空を描いたところ、青い空に書き直させられたというのです。さらにそんなことは日常茶飯事で当たり前のことというのです。その子の空は夕焼けの空かもしれない、あるいは、太陽がサンサンと照りつけた真っ赤なイメージの空だったのかもしれない。本人が何を感じ、どう表現したいかをくみ取ることより、空は青いものという既存概念を植え付けることが優先されていることに愕然とし、大きな違和感とともに虚しい気持ちでいっぱいになりました。

現在「ゆとり教育」が、学力低下を招いたという理由で学力重視の方向へ転換されています。もちろん基礎



学力を身に着けることの重要性は理解しています。しかし、一方で子どもたちを標準化、平均化しその枠の中に入っていること、入ろうと努力していることが評価され、枠からはみ出すものは評価されないという現状には首をひねりたくありません。

昨夏には沖縄県で全国学力テストの平均点が下がるとの理由で、欠席が多い、学力が低いとみなされた生徒の答案用紙を除外したことがニュースになりました。この事例は、先生方が評価対象となり、自身も一定の枠内に入ろうとして目先の評価に翻弄されることの象徴のように感じられました。

本来人間はみんな違って当然です。勉強のできる子もいれば苦手な子もいます。学校が大好きな子もいれば集団が苦手な子もいます。苦手や違いを排除したり無視したりせず、また無理に克服するのではなく、「みんな違ってそれでいい」。そんな当たり前なことを認め合える心のゆとりを支援していくことも教育の重要な一端なのではないでしょうか。多様な価値観があふれ、格差が広がっていると騒がれる昨今だからこそ、子どもたちも先生方も笑顔で互いを認めあえる教育現場が増えることを願ってやみません。

(おかだ きょうこ)



## 趣味は「メダカ」です

全国メダカ協会会員

天野 雅弘 氏

岡崎市小中学校理科作品展の入口で来場者を迎えたのは、色鮮やかな改良メダカたちだった。青黒いうろこに黄金の模様をまとったメダカは「カブキ」という名で、なかには一匹で数万円になるものもいる。

「私は、メダカ屋さんになるために飼育を始めたわけではありません。心の中では今でも趣味のままです。」メダカの話になると天野氏は少年のような笑みを浮かべて語り出す。「きっかけは孫娘の誕生でした。孫が遊びに来たときに、何か生き物がいたら喜ぶかと思ったんです。」

今から十年前、天野氏がインターネットでメダカの育て方を調べていたときだった。「楊貴妃」という、腹が丸く膨らんだ薄赤色のメダカが

目に留まった。

「見たことがないきれいな色でした。コイや金魚と違い、メダカはネットで簡単に買うことができます。小学生が卵をふ化させるように、自分で増やすこともできます。さらに、改良メダカといって、自分が新しいメダカを作ることだってできるのです。自分の知らなかった新しい世界が、一気に目の前に広がりました。」

五十歳のとき、メダカを飼育するため、自宅の畑だった十五坪の土地にビニールハウスを建てた。「ミユキ」という、背中に光沢を持つメダカを使って、改良のための交配を始めた。「それから二年間、新しいメダカが生まれることはありませんでした。今でもそうですが、結果が出ないからおもしろいのだと思います。すぐに結果が出るようなことでは、誰も努力しないと思います。」

ある日、水槽の中に、今まで見たことがない、二色の体色を持つメダカが泳いでいるのを発見した。「私が作ろうと思って作ったわけではありません。交配していたら、たまたま一匹だけ生まれてきたものです。ここからが人間の技術です。一匹から遺伝が続くように、さらに交配を重ね、遺伝を固定していきます。その作業が私の仕事です。」

遺伝が続かず、一匹だけの突然変異で終わることも少なくないという。「水温などの条件さえ整えてあれば、年に五、六代は交配することができ

ます。でも、結果はメダカが決めることです。交配というのは人間が勝手にやることです。それに応えてくれることのほうが少ないのはあたりまえだと思っています。結果について喜ぶことはあっても、めげることはまったくありません。」

それからさらに二年をかけ、初めて遺伝の固定に成功したこのメダカを、天野氏は「カブキ」と命名した。今では十種以上の新しい品種を世に送り出し、日本メダカ協会の会員として講習会を開くなど、改良メダカの普及活動を全国的に行っている。「改良メダカを知らない人たちに、その魅力を伝えるのが何より楽しいです。全国に百万人のメダカ好きがいる時代を作るのが私の夢です。」「趣味が仕事」と言い切る天野氏の目の前には、色鮮やかな夢が広がっている。



氏名 あまの まさひろ  
生年月日 昭和三十四年七月二十一日  
住所 岡崎市国正町

## 「感性を磨く」

岩津中 校長

長坂 洋人

私たち教師は、学習指導・生徒指導・部活指導等を通して、子供たちの成長に関わっている。しかし、同じような言葉をかけたとしても、担当する教師によって指導がうまくいったりいかなかったりする。なぜだろうか。それは、誰もが自分という人間を通して指導しているからである。つまり、自分という人間の個性が指導する際の大きな手だてとなるのである。自分の個性を発揮して人としての魅力を高めていくことで、信頼関係が深まり指導がしやすくなる。しかし、自分の個性がうまく子供たちに伝わらなければ信頼関係は損なわれ、指導も通じなくなる。

教師である私たちは、教師として個性を発揮するために、教師としての「感性を磨く」ことが必要不可欠なことであると考えている。

私たち教師の仕事は、子供たちと





## 成長を見守る喜び

六ツ美北中  
丸尾 友美

先の卒業式で、三年間共に歩んできた生徒たちが巣立っていった。卒業証書授与では、こみ上げてくる涙をこらえながら、精一杯の返事をするA子の姿があった。その横顔を見たとき、これまでの思い出が鮮明によみがえってきた。

「学校に行きたくない。」  
新しい環境になかなかなじみず、自分に自信がもてずにいたA子は、何に対しても消極的だった。一年生の最初の頃は、担任でも教科担任でもなかったために、彼女とほとんど関わる機会がなかった。ほとんど無口で誰とも話そうとしない様子を担任から聞き心配になり、会う度に声をかけるようになった。

二年生になり、A子の教科担任として関わることができるようになった。実験後のグループで考察する場面

では、A子は一言も話さず、うつむきながら、ノートに書いた自分の答えをひたすら消していた。そんな彼女の授業日記に「自分の考えに自信をもって」とコメントした。その後もなかなか自分から意見を発信することができなかったので、折を見て声をかけるようにした。

「よく書けているね。面白い考え方だね」「何でこう考えたの。教えて」  
その度に、彼女はふっとほほえむようになった。

A子の着眼点のよさ、他の生徒にない発想力を授業で生かせないかと考えた。そして、「化学変化と原子分子」(単元名)の学習の発展として、原子モデルをパズルのように動かして学んでいく授業を設定した。

どうなっているのだろうと首をかしげながら考える生徒たちの中で、A子は、するすると原子モデルを動かした。その後の化学変化についてのグループ発表では、発言する彼女に視線が集まった。

「すごいね。思いつかなかった。」  
友達からの称賛で、自信をつけたA子に全体での発表を勧めると、  
「言ってみようかな。」

と、明るく答え、全員の前で堂々と発表することができた。A子が変わったのは、その後からだ。色々な場面で自分の考えをきちんと伝え、友達と討論ができるようになった。

三年生では、A子の担任として、多くの時間を共に過ごすことができた。体育大会のリーダーに立候補しようか迷っていたA子に、  
「A子ならできるよ。やってみたら。」と声をかけた。すると、A子はうなずき、まっすぐに手を挙げた。その後も文化祭の実行委員など、様々な場面で積極的に挑戦する姿が見られるようになった。かつての彼女の姿からは想像できないくらい、目覚ましい成長を遂げた。

卒業式後、教室でA子から手紙を手渡された。  
「自分がこんなに成長できるとは思っていませんでした。私が成長する機会をくれて、本当にありがとうございました。」

人の成長にここまで喜びを感じた瞬間はなかった。熱くなった目頭を、ハンカチでそっと押さえた。



いう人間を相手にしたものである。子供たちが今どう思っているか、どう考えているかが分かれば、次に打つべき手だてを考へることが可能になる。例えば、子供たちの意識を探つたうえで、やる気を引き出すような効果的な声かけをする。あるいは、子供たちが思わず手を挙げて発言しなくなるような、発問の内容・方法を工夫するなどである。何も学習に限ったことではない。生徒指導や部活指導についても同じことである。

しかし、児童生徒の意識を探ることとはなかなか難しい。だからこそ、授業があまりうまくいかないことがあるのである。

ここまで教師生活を続けてきて分かってきたことがある。それは、子供の意識を探ろうとするとき、必ず自分の感性でそれを感じ取ろうとする、ということである。自分の教師としての感性を磨かなければ、子供の意識は探れないということなのだ。よく研修を積むというが、単に研修を重ねるだけでは「感性を磨く」とはできない。自分に起こる一つの出来事を、強く自分の心に刻みつけることだ。その意識さえあれば、たった一つの体験も永遠に残り、自分という人間の感性が磨かれていく。  
「感性を磨く」教師でありたい。



# 平成29年度 岡崎の教育

▲ 確かな学力 (広幡小)

## 岡崎の教師

四月、子供たちとの出会いは、教師にとつても常に新鮮であるとともに、身が引き締まる。そして、出会う子供たちから向けられるまなざしは、今から始まる学校生活への期待と教師への期待に満ちている。

私たちは、目の前の子供たちの成長に大きく関わっている。日本人の平均寿命が八十歳を超える現代、子供たちの人生にとつて、義務教育九か年は、決して長い時間ではない。しかし、この限られた時間の中で行われる小中学校の学びは、その後の人生に、大きな影響を与える。ゆえに、私たち教師は、子供たちの教育に覚悟をもって取り組み、その成長に責任を果たさなければならぬ。

私たち岡崎の教師が願うことは、「子供たちの一人一人の幸せ」である。学校での学びは、その「子供たちの一人一人の幸せ」を保障するものでなくてはならない。ちょうど、春の花が暖かな陽に照らされて、蕾を膨らませるように、私たちは、子供が学校生活を積み重ねることによって、愛される存在であることを自覚し、命ある喜びを膨らませて欲

しい。豊かに生きるために自己の将来に夢を膨らませて欲しい。人々の幸福を願い未来社会への期待を膨らませて欲しいと願う。そして、一人一人が幸せという美しい花を咲かせて欲しいと願う。

そのために、私たち岡崎の教師は、崇高な理想と高い倫理観のもと真摯に子供と向き合い教育活動にあたりたいかなければならない。

## 岡崎の教育の視点

学校教育に求められているものは、児童・生徒が人間として生涯にわたって心豊かで、力強く生きぬくための基盤となる能力を育成することと、知・徳・体の調和のとれた感性豊かな人間形成を図ることである。その原点には、教師の「子供の幸せを願う強い思い」と「人間形成への情熱」がなければならぬ。

各学校においては、基礎的、基本的な内容を重視し、個に応じた指導を充実するなかで、公共の精神を尊び、児童・生徒の個性を伸ばす教育を展開することが大切である。そのために、学校や地域の実態に応じて、創意工夫を生かした特色ある教育課程を編成し、子供が自他を敬愛し、喜ん



▲ 健やかな体 (大樹寺小)



▲ 豊かな心 (山中小)

で通うことのできる、安全で魅力ある学校づくりを目指す。

「教育は人なり」の至言のごとく、岡崎の教師は、教育者としての使命感に燃え、全校一致の指導体制のもと、敬愛の情で結ばれた師弟関係を築き、家庭と地域と学校とが協働し、信頼される教育の創造に努める。

特に、次の三点を指導の重点とする。

○学ぶ楽しさを実感し、学び続けるための「**確かな学力**」を育む教育の推進

○命の尊さやふるさとの大切さを自覚し、共に生きるための「**豊かな心**」を育む教育の推進

○体を動かす楽しさを体感し、たくましく生きるための「**健やかな体**」を育む教育の推進

### 時代の要請にこたえる教育

学校教育は、子供たちの幸せを願い「生きる力」を育まなければならぬ。そのために、社会の動向を見据え、不易と流行を見極めながら、ゆるぎない教育理念のもとに、教育活動を展開していく必要がある。

情報化やグローバル化といった社会変化は、人間の予測を超えて加速度

的に変化するようになってきている。未来予測が困難な時代になったと言われているが、未来を創り出すのは、人間であり、私たちの目の前にいる子供たちである。

三月に告示された新学習指導要領では、「一人一人が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすること」が求められ、各教科で身につけさせたい資質・能力が明確に示された。そして、「主体的・対話的で深い学び」の実現を掲げている。私たちは、これまで培ってきた教育実践を礎として、新たに求められる教育を弛まない授業改善と教育活動の工夫を通して実現していく。

岡崎の教育は、これまで、その時代の要請に応え、様々な教育活動を推進してきた。「英語教育」、「環境教育」、「岡崎の心の醸成」を中心に据えて実践してきたESDは、各教科・領域で継続していく。子供たちが、予測できない社会変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合っ

一人一人が未来の創り手となる力を身につけていくために。

### 重点努力事項

今、私たちが取り組むべき事柄として、以下の四つを挙げる。

①深い子供理解に基づいた「心」ある教育活動

道徳教育の充実をはかり、他者を思いやる心を育む。また、子供の心に寄り添った教育活動を行い、学級集団適応心理検査(中学校)等も活用するなどして子供理解に努める。

②学校ICT化の推進

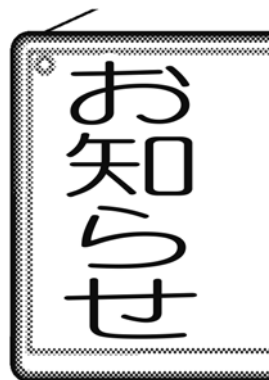
個の学び、協働的学びの充実を図るため、情報機器活用を推進する。また、OKサイン等の活用により情報の活用・管理を充実させる。

③新学習指導要領に基づいた教育課程・授業研究の推進

市研究委嘱校、教科・領域指導員会、授業改善委員会を中心に、新たな教科・領域、また、内容に対する授業実践を行い、先行研究を進める。

④健康でやりがいのある教職員の働き方の見直し、職場環境の改善

教職員の働き方研究委員会を設置し、子供や教職員の多忙化を解消し、健康的な学校生活を実現する。



### ●岡崎市教育委員会

平成二十九年四月一日より、岡崎市教育委員会では、土屋武志氏が教育長職務代理者となった。他の教育委員は、小出義信氏、岡田京子氏、福應謙一氏の三名である。

また、学校指導課は、指導管理係、指導研修係、教育支援係、学事保健係の四係体制となった。なお、総務課に、学校情報係が新設された。

### ●教育関係機関だより

#### ◆教育相談センター

☎七一一三二〇一

教育相談部門と通所・支援部門がある。教育相談部門には、「そよかぜ相談室」があり、通所・支援部門には、不登校児童生徒適応指導教室「ハートピア竜美」等がある。

#### ○そよかぜ相談室

主な相談内容は、いじめや不登校、就学、発達等の問題である。相談したい場合は、電話で予約をした後、来所すれば臨床心理士や相談員が対応する。また、発達障がい等の専門家が巡回相談を実施している。

#### ○ハートピア竜美

☎七一一三二〇七

学校への復帰を目指し、子供がハートピアへ通所し、指導員やハートピア専属の臨床心理士による支援を受ける。また、通所できない子供には、学校からの要請に応じて、登校支援員が家庭訪問をするなどして、登校の支援、相談等を行っている。

#### ○スクールソーシャルワーカー

児童生徒が置かれている環境への働きかけ、関係機関との連携・調整や支援を行う。学校に精通した社会福祉士や教員OBが対応する。

の連携・調整や支援を行う。学校に精通した社会福祉士や教員OBが対応する。

#### ◆岡崎市総合学習センター

☎五四一一一五

#### ○教育研究所

☎八三一一七七〇

岡崎市総合学習センターは、平成二十三年八月にオープンし、大・小ホール、教育研究室等を完備した教育施設として多くの人に利用されている。特に、教育研究所内の教育図書室は、学習指導案の閲覧、図書資料の貸し出し、学芸会等行事のDVD視聴などができ、現場の先生方に役立つ情報が充実している。

また、教育アドバイザーが常駐しており、教育に関する様々なことについて、相談することができ、

#### ○ハートピア上地

☎五八一一四八三

一昨年度より、適応教室の利用希望者増加に対応するために開設された。事業内容は、「ハートピア竜美」と同じである。

#### ◆少年自然の家

☎四七一一三五七

新しい年度が始まり、四月中旬から中学校二校をはじめ小学生対象の四一団体の子どもたちの来所を心待ちにしている。自然の家での活動を楽しみにして、胸を躍らせてく

る子どもと、山での行事を通して、子どもたちを成長させようとする先生方との温かな二泊三日が始まる。

今年度も、昨年の山の指導員三名の内二名が変わったが、旧指導員の子どもたちへの想いを託された新指導員も、新しい出会いを楽しみに準備を怠ることなく進めている。

また、中学校の利用が減少した分、新しいアイデアで自然の家を利用してもらえる団体を募集している。

自然に親しみ心豊かな子どもたちが育ち、「また来たい」と笑顔で言ってもらえる自然の家を目指したい。

### ●表彰

#### ◆中部日本個人・重奏コンテ

スト(本大会)

○中学校 個人の部

銀賞 六ッ美中 兵頭 志保 (フルート)

新香山中 成瀬 梨子 (トランペット)

○中学校 重奏の部

銀賞 美川中 ザリネット八重奏

銅賞 竜海中 金管八重奏

六ッ美中 金管八重奏

#### ◆中部日本個人・重奏コンテ

スト愛知県大会

○小学校 個人の部

金賞 竜美丘小 中村 奏帆 (トロンボーン)

○小学校 重奏の部

金賞 竜美丘小 サクソフシ五重奏

○中学校 個人の部

金賞 六ッ美中 兵頭 志保 (フルート)

新香山中 成瀬 梨子 (トランペット)

○中学校 重奏の部

銀賞 美川中 山西 詩菜 (ホルン)

矢作北中 日比野妃莉 (ユーフォニアム)

○中学校 重奏の部

金賞 竜海中 金管八重奏

● 期待の新任教員

美川中 クラネット八重奏  
六ツ美中 金管八重奏  
新香山中 サクソフオン西重奏

連尺小学校 田中 亮次  
広幡小学校 柏崎安衣子  
井田小学校 里見 涼多  
中村 緑  
竹内 公一  
杉山 美紀  
向 孝太  
福岡小学校 生田あかり

矢作南小学校 村橋 奈波  
大橋 礼  
石川裕一郎  
渡邊 桃子  
古賀 範和  
伊藤裕紀子  
西村 文利  
中村壮二郎  
梶田健一郎  
市川 愛梨  
池田 美輝  
岡田 玲奈  
児玉 美姫  
渡邊 康暉  
浅井 健志  
平沢 有紀  
藤波柚布子  
林 徳一  
原山 尚也  
伊藤めぐみ  
杉下 尚  
濱嶋 智哉  
加藤佑佳子  
河西 啓公  
北村 友恵  
尾碕 琢哉  
渡邊 勇輝  
櫻井 裕司  
伊藤 正信  
神谷 真央  
水越 優

六ツ美中学校 山田 真希  
矢作北中学校 福本 秀裕  
新香山中学校 大池 健太  
杉浦 貴恵  
竜南中学校 竹島 栞  
北中学校 牧野さとみ  
鶴田 裕人  
六ツ美北中学校 永田 恭子  
翔南中学校 水野 孝哉  
宮崎小学校 金本 美奈  
竜海中学校 杉本 葵  
六ツ美北中学校 石原 千穂  
額田中学校 鈴木 美佳  
福岡小学校 小菅 理恵  
岩津中学校 酒井 恭子

◆ 全国児童才能開発コンテスト

○ 作文部門

全国連合小学校校長会会長賞  
竜谷小 三宅 結翔  
六ツ美北 鈴木 望心  
岩津小 今村 颯

梅園小学校 江口 圭介  
川口 真生  
山本慎太郎  
門脇 彩織  
清水 菜月  
弓場 莉奈  
坂本 篤彦  
丸山加那子  
蜂須賀一輝  
大澤 彩佳  
山本 真実  
藤澤亜沙美  
川淵加奈子  
鹿島 稜平  
浅井 麻佑  
馬越 遼  
米岡 健汰  
白木 歩澄  
坂井 滉平  
安藤 悠花  
中野加奈子  
酒井 優  
森本 彬

福岡小学校 向 孝太

生田あかり

六ツ美南部小学校

梶田健一郎

六ツ美北中学校

永田 恭子

日本PTA全国協議会会長賞  
連尺小 磯谷 洋斗

◆ 新規採用教諭

根石小学校 山本慎太郎

常磐南小学校

長谷川竣也

城南小学校

池田 美輝

宮崎小学校

金本 美奈

学研賞  
竜美丘小 池田 尚優  
岡崎小 道田 晴仁  
竜美丘小 石川 瑞桜  
井田小 柳瀬 栞里

美合小学校 丸山加那子

奥殿小学校

菅沼 勇志

小豆坂小学校

北野小学校

藤波柚布子

額田中学校

鈴木 美佳

菅公賞  
矢作東小 水野 具生  
六ツ美北 武内 祐樹  
六名小 北村 憧香  
六ツ美北 神取 美早  
竜美丘小 市川 未莉

緑丘小学校 大澤 彩佳

岩津小学校

吉田あゆみ

六ツ美西部小学校

形埜小学校

原山 尚也

福岡小学校

小菅 理恵

才能開発教育研究財団理事長賞  
六名小 北村 憧香  
六ツ美北 神取 美早  
竜美丘小 市川 未莉

岡崎小学校 鹿島 稜平

大門小学校

忠内 亮太

南中学校

美川中学校

杉下 尚

竜南中学校

竹島 栞

○ 図画部門  
日本PTA全国協議会会長賞  
連尺小 近藤サアド

三島小学校 坂井 滉平

矢作東小学校

池本 拓己

竜海中学校

城北中学校

尾碕 琢哉

大門小学校

植手 友浩

◆ ソニー子ども科学教育プログラム  
奨励校 葵中

竜美丘小学校

矢作西小学校

鈴木 健人

東海中学校

伊藤 正信

神谷 真央

竜海中学校

富田 剛史

● 期待の新任事務職員

平成二十九年度の新任事務職員は七名で、配置は次のとおりである。

○ 図画部門

日本PTA全国協議会会長賞  
連尺小 近藤サアド

三島小学校

坂井 滉平

矢作東小学校

池本 拓己

竜海中学校

尾碕 琢哉

大門小学校

植手 友浩

◆ ソニー子ども科学教育プログラム  
奨励校 葵中

竜美丘小学校

矢作西小学校

鈴木 健人

東海中学校

伊藤 正信

神谷 真央

竜海中学校

富田 剛史

・題字  
 ・タイトルバック  
 ・各タイトル  
 ・カテゴリー

教育長 高橋 淳  
 常磐中 中根 勅子  
 岩津中 杉本 洋平  
 大門小 坪井 恵利子

## 自然観察コース完成 (昭和62年)

写真提供：小豆坂小学校



小豆坂小学校が開校四年目を迎えた昭和六十二年、学校周辺の森や池などを巡る形で配置された「自然観察コース」が完成した。

その後も整備を進め、生活科や総合的な学習の時間で活用している。昨年度三年生が、コースにあるガン池に生息する、希少種ツマキチョウの生態を調査した。そして、調査結果をもとに環境について考え授業研究協議会で発表した。

こうした自然観察施設には、実物を教材として体験的に学ぶことを大切にしたいという教師の思いが込められている。



\*改革  
 ポプラ社

井上 康生  
 ¥1,500

心に残った一文  
 名コーチは名質問者であれ

日本の柔道復活をかけ、監督に就任した井上康生氏。数々の改革を行い、リオ五輪では金メダル2個を含む全7階級でメダル獲得という快挙を成し遂げた。

注目したいのは、選手に対し「こうしろ」とこちらの考えを押し付けるのではなく、「あの技はどういうつもりでかけたのか」などと問い、選手の中にあるものを引き出し、生かしていくという指導姿勢である。そのために、指導者は優れた質問者でなければならないと説く。

児童・生徒を指導する際、さらには、ベテラン教員が若手を育てる心構えとしても生きてくる教師必読の書である。

\*優しさと勇気の育てかた 水谷 修 ¥1,400  
 日本評論社  
 \*勝ち続ける理由 原 晋 ¥780  
 祥伝社  
 \*ルポ 保健室 秋山 千佳 ¥780  
 朝日新聞出版

常磐中 戸澤 剛

微笑みいっぱいの子供たちが、私の教室に集まった。これから始まる一年に夢と希望を膨らませ、教室のそこかしこで、笑顔の花を咲かせている。

苦勞もあるが、楽しいこともいっぱいある。一つ一つの花が大輪として煌めくための一年である。

## とホ

突然変異で生まれたメダカ初の「ヒメダカ」は、江戸時代に誕生した。その後、改良メダカの種類は増え、今では三百品種ほどあると言われている。

劣性と呼ばれる遺伝子の中にも、よく見れば美しいものが存在する。職人の手にかかれば、それも比類ない個性となる。

## 卯月



チューリップ (六名小)

つらさや悲しさで、素直に自己表現できずに教室で過ごす子供がいる。

教師はあらゆる手段を講じて子供を理解し、寄り添える存在でありたい。そして何より、教師の本分である授業を通して表現できる子を育てたい。今年の授業の案を練る春である。